

# レトロ・レトロの展覧会

## 2016

2016.7.23 – 8.28



主催：公益財団法人滋賀県文化財保護協会  
共催：滋賀県教育委員会

# レトロ・レトロの展覧会 2016

2016.7.23~8.28



期間：7月23日（土）

～8月28日（日）

時間：9時から17時（月～金）

13時から17時（土日祝）

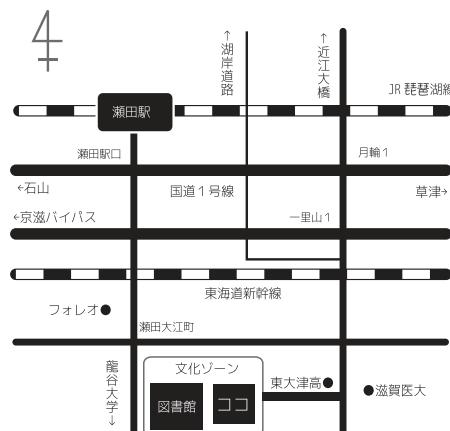
入館料：無料

休館日：会期中無休

場所：滋賀県埋蔵文化財センター

大津市瀬田南大萱町 1732-2

(文化ゾーン内：図書館の東側)



※瀬田駅からバス

「滋賀医大行」「文化ゾーン前」

※無料駐車場あり

### 【問い合わせ】

公益財団法人滋賀県文化財

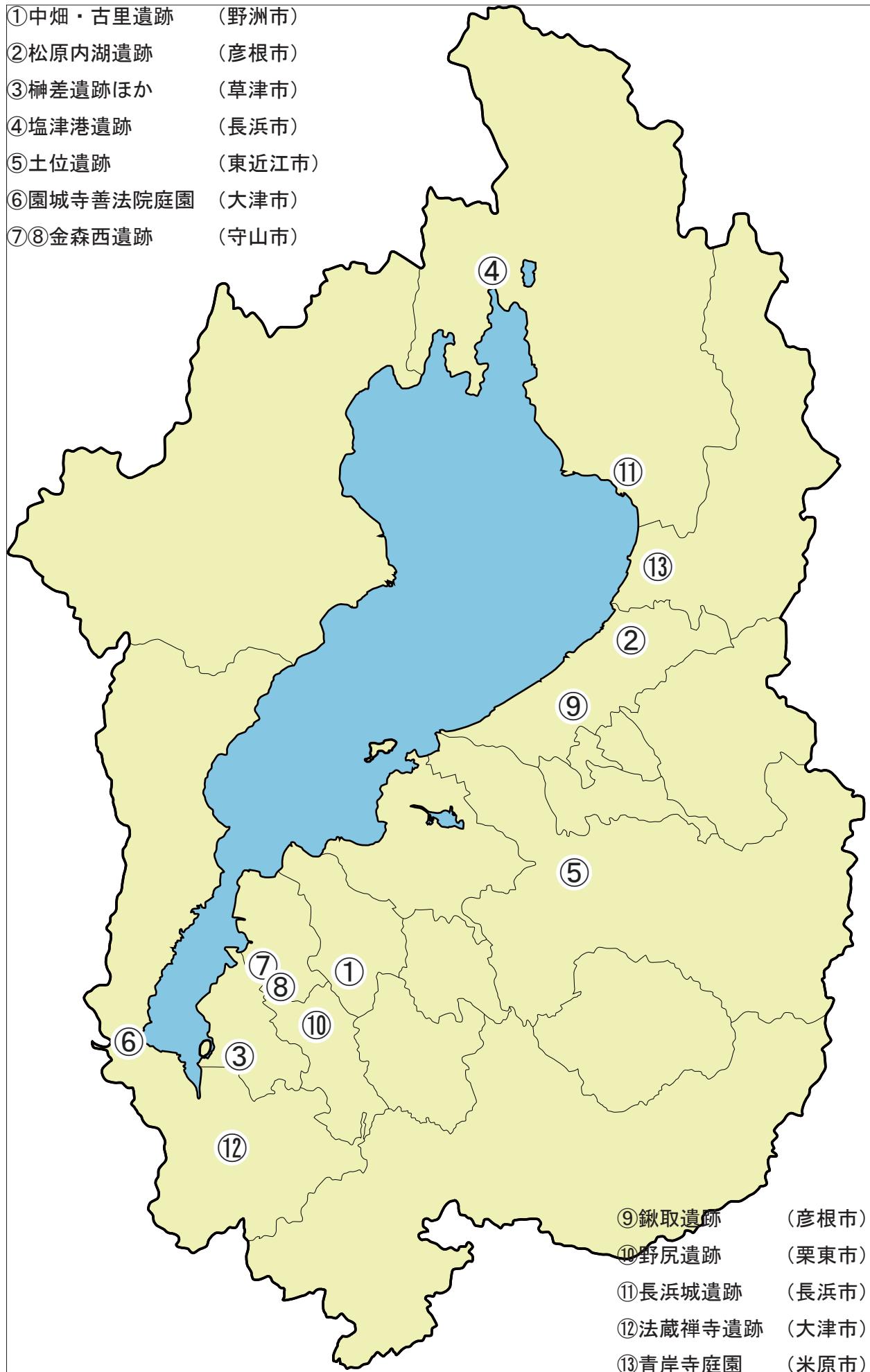
TEL : 077-548-9780

【QB】-  $T_s$



## 今回紹介する遺跡の位置

- ①中畠・古里遺跡 (野洲市)
- ②松原内湖遺跡 (彦根市)
- ③榎差遺跡ほか (草津市)
- ④塩津港遺跡 (長浜市)
- ⑤土位遺跡 (東近江市)
- ⑥園城寺善法院庭園 (大津市)
- ⑦⑧金森西遺跡 (守山市)



## 中畑・古里遺跡

三上山のふもとに広がる遺跡です。調査対象地内には、弥生時代中期から室町時代にかけての集落跡の中畑・古里遺跡と安城寺遺跡があります。これらの遺跡は近江富士として有名な三上山の北側にある妙光寺山からの低い丘陵と、旧河道により形成された自然堤防の上にあります。一般国道8号野洲栗東バイパス工事に伴って、発掘調査を実施しました。

調査の結果、弥生時代中期と後期の方形周溝墓や、古墳時代前期の堅穴住居、奈良時代の掘立柱建物・柵・井戸、平安時代の掘立柱建物・井戸・溝などの、各時代の人々の生活の跡が見つかりました。



【方形周溝墓】（弥生時代中期後葉）



【方形周溝墓】（弥生時代後期）

弥生時代中期の方形周溝墓2基・後期の方形周溝墓が2基見つかりました。

4基とも、墳丘内部に設けられた埋葬施設は、後世に削られて残っていませんでした。



【甕】（弥生時代）



【壺】（弥生時代）



【掘立柱建物】(平安時代末)



【井戸】(平安時代後期)

一辺 1.5 m の方形の掘方をもつ井戸です。内部には、方形の木組みの井戸枠が据えられ、底の部分には曲物が残っていました。



【井戸】(奈良時代)

直径 4 m の円形の掘方をもつ井戸です。内部には、方形の木組みの井戸枠が据えられていた痕跡がありました。



【柱穴】(平安時代)



【勾玉】(古墳時代)



【横穴式石室】(古墳時代後期)



【石室内の土器】(提瓶・杯)



【平安時代のお墓】

## 松原内湖遺跡

松原内湖遺跡は、彦根市北部の旧松原内湖と佐和山丘陵が接するところにある遺跡です。国道8号米原バイパス事業に伴い発掘調査を実施しました。平成27年度の調査では尾根の上で古墳時代と平安時代のお墓が見つかりました。

古墳は埋葬施設が岩盤を掘り込んで設置した横穴式石室で、須恵器の杯や提瓶が出土しました。平安時代のお墓は細頸壺を蔵骨器としたもので、やはり硬い岩盤を壺より一回り大きく掘り込んで埋めてありました。近くで以前、江戸時代の蔵骨器もみつかっています。周辺一帯は長い間、埋葬地であったようです。



【内湖のほとりの集落】(鎌倉時代～室町時代)

### 松原内湖のほとりの集落

もとは松原内湖という内湖に面していた谷のところから、鎌倉時代から室町時代の建物跡がたくさん見つかりました。さらに、この中世の集落を作った時の整地土の中には奈良時代から平安時代の遺物がたくさん混じっていました。同じ場所に古代の集落もあったようです。

さらに、縄文時代から古墳時代の遺物もみられ、松原内湖のほとりは縄文時代から集落が営まってきたことがわかりました。この場所で長い間集落が営まれた理由は、内湖と丘陵が接していることから多くの食料が得られ、さらに波の穏やかな内湖が漁業や船着き場に適していたことがあげられます。



【内湖のほとりの集落】(鎌倉時代～室町時代)



【掘立柱建物】(室町時代)



【直角に曲がる区画溝と掘立柱建物】（鎌倉時代）



【丸太を割り抜いて井筒にした井戸】（室町時代）

【溝の調査のようす】



## 榊差遺跡・黒土遺跡・榊差古墳群

南草津プリムタウン地区画整理事業に伴い発

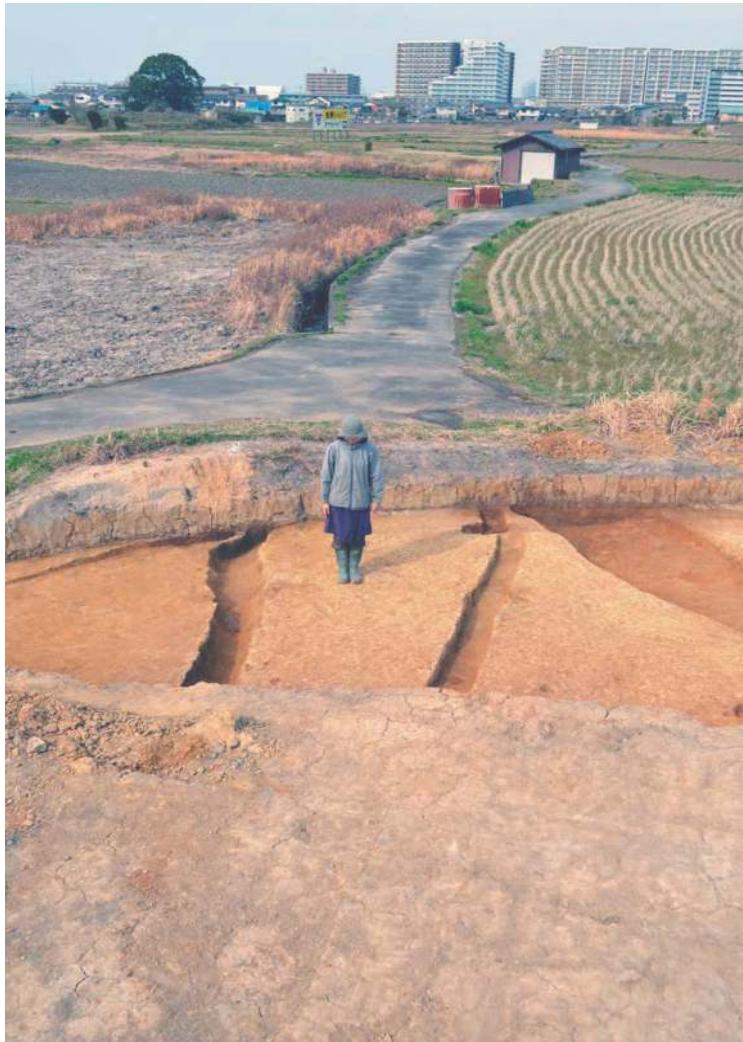
掘調査を実施しました。調査は今も続いています。

7世紀の竪穴住居のほか、古代から室町時代にかけては大小の溝が掘られていました。集落を囲つ

たり、建物を区画したりした溝と考えられます。区画の中は掘立柱建物が立ち並び、大きな井戸も

掘られていました。

その後、この集落は消え、畑や水田となりました。しかし、その姿が完全に消滅していたのではありません。田んぼやアゼの形で、昔の姿を伝え残していました。



【細長い田んぼの下はかつての区画溝でした】

何百年も前の歴史の情報が意図せずに地表に現れている場合があります。植生の違いや土壤の違いとして現れる「クロップマーク」や「ソイルマーク」などがあります。榊差遺跡では田んぼの形やアゼに数百年前に存在した集落の跡がうっすらと残っていました。今は屈曲する道もかつてはそのまま、まっすぐに伸びていたものでした。

【道はまだまだ続いていました】



【竪穴住居】(7世紀) 4本の柱を立て、周囲に溝を掘っています。正面奥のより赤く見えるところがカマドです。

## 塩津港遺跡

近代交通が発達する前、南北に長い琵琶湖を天然の運河とした水運が盛んでした。なかでも日本海に最も近い塩津は京と北陸とを結ぶ要港として栄え、万葉集にも詠われました。

国道8号塩津バイパスの工事に伴い平成24年度から4箇所でおこなった発掘調査でその港が姿を現しました。その調査区を合成したのが左の写真です。琵琶湖に突き出すように港が作られていました。平成27年度の調査区は左下の個所です。

見つかった港は12世紀（平安時代後期）に築き始められたもので、すべて、琵琶湖を埋め立てて作られていました。造成工事は繰り返し何

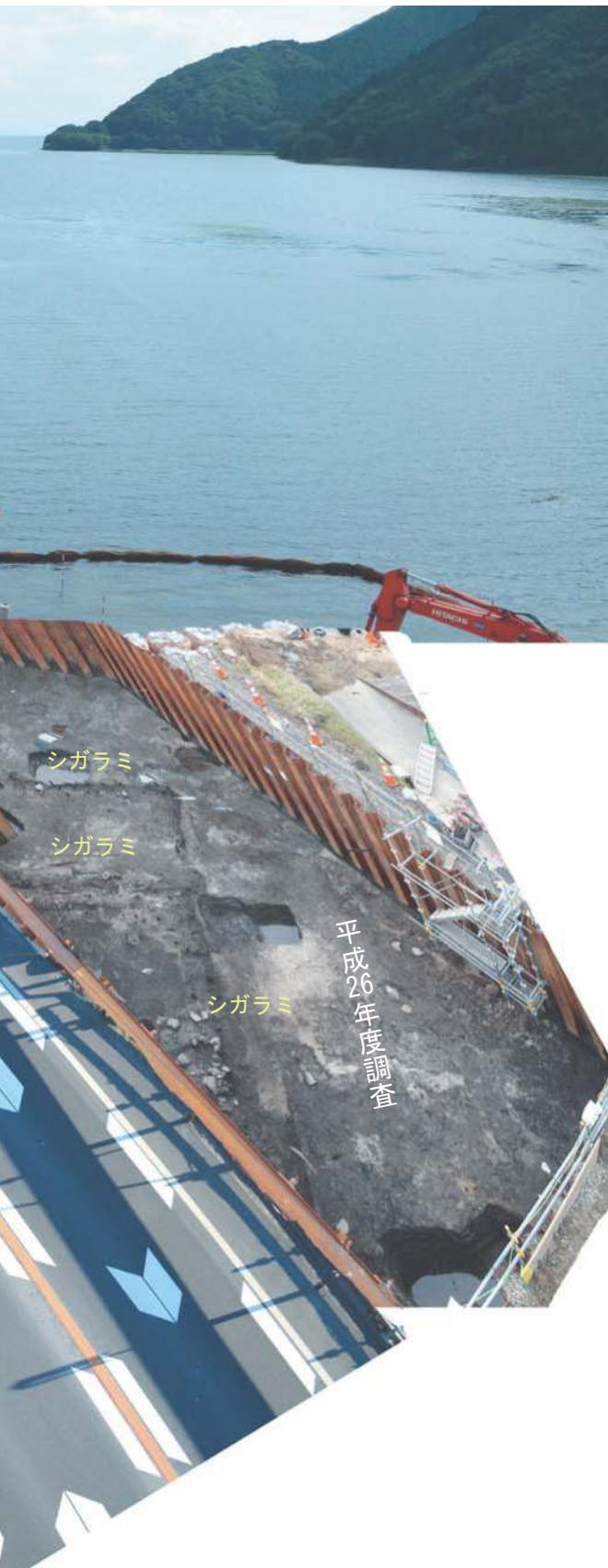
度もおこなわれ、平安時代の約百年の間で、2m以上嵩上げし、湖岸を40m以上前進させています。

調査したのは、広く展開していたと考えられる旧塩津港のごく一部分ですが、その繁栄ぶりが手に取るように伝わってきます。それは当時唯一の都会であつた京都の町の様子にも劣らない賑わいだつたのです。

平成27年度の調査では、港の中心的な施設があつたことを窺わせる埠で囲われた区画や大きな建物、そして幅3～4mの南北道路や水路などが見つかりました。同じ埋め立て地でも場所によって埋め立ての品質に差があることもわかりました。「多重シガラミ」・「高密度杭列」・「菱

垣」などで護岸した区内に石を大量に投入して強固に作り上げた区画もあれば、簡単なシガラミに砂とゴミの投入で築かれている場所もあります。最も強固な作りなのが南北道路です。この道路を中心東側に重要な施設が、西側には庶民的な空間が展開していたと考えられます。

調査では日本の物流を支えた要港塩津の姿を、あらゆる面から捉えることができる貴重な資料が多数得られています。



### 【塩津海道】

日本海の敦賀と塩津を繋ぐ道。5里半越えと呼ばれ、深坂峠（標高370m）を越えて敦賀まではほぼ直線で結びました。今回検出した南北道路は12世紀の初めごろに設置されたものです。平成26年度の調査区に南端部があります。琵琶湖に接し、道はここで終了しています。この先は琵琶湖航路となり大津、そして京都へと繋がります。



## 文化も遺構も重層する塩津の港



● 12世紀（平安時代）  
道・水路・菱垣・高密度杭列



● 13世紀（鎌倉時代）  
道・石敷・木組みの井戸

● 14世紀（室町時代・地表から2m下）  
道・柱穴・石組の井戸・石室  
標高約84.5m



【様の建物基壇】（12世紀）

積み重なる遺跡

見つかった塩津港の遺構は12世紀から14世紀にかけて作られたものです。その間に何度も拡張と嵩上げが繰り返され、建物も何度も建て替えられ、道路も補修が繰り返されました。その結果、埋め立てに要した盛土は2mもの厚みをなし、調査で記録した面数は15面にもおよびました。

刻々と変わる塩津の町の様子が積み重ねられた盛土の中に何層にもわたって残されていました。

上の写真は同じ場所の写真です。左端の写真が最も古く12世紀の初めごろの様子です。現在の地面から4m下の様子です。右に向けて時間が進み、刻々と変化していく塩津港の様子がわかります。水路や建物の区画の多くは木で作られています。琵琶湖が近いにもかかわらず井戸が何基も掘られたのは、繁栄の裏返しとして琵琶湖の水が汚れていたからと考えられます。

平安時代や鎌倉時代の港が見つかったのは、標高84メートルより下です。現在の琵琶湖の水位よりも低く、すべてが事実上の湖底遺跡になっています。



● 12世紀（平安時代）  
道・初期造成区画・旧湖底面  
標高 82.5 m



● 12世紀（平安時代）  
道・造成区画・造成充填材



● 12世紀（平安時代）  
道・水路・造成区画・堀・建物



【壁が縦板仕様の壁建物】（12世紀）



【壁が菱垣仕様の建物】（12世紀）



【横板仕様の建物】（12世紀）

#### 【薄板（ヘギ板）】

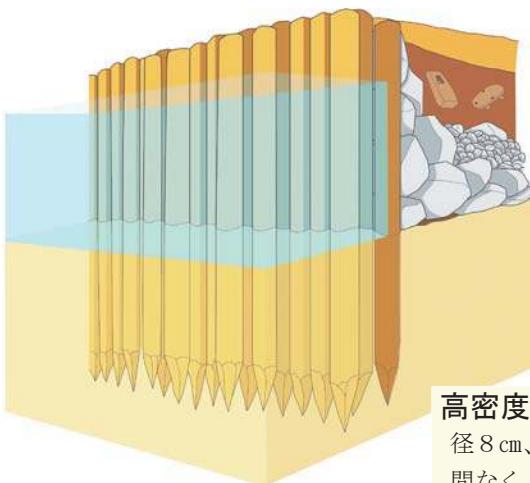
幅10cm、厚さ1cm程度の薄いスギ板が港作りにたくさん使われています。基壇の縁を止める関板、菱垣、井戸枠、そして建物の壁材などです。この薄板は汎用性の高い規格材として塩津の港で流通していたと考えられます。

右の写真7枚は同じ場所を写した写真です。画面左側が道路遺構で旧塩津海道と考えられます。写真の右半分は道に沿った中心区画の一角となります。道はほぼ同じ場所で使われ続けますが、補修を繰り返し、室町時代には設置された当初より2m以上も路面が高くなっています。

特に12世紀中に行われた工事量は大きく、目まぐるしく姿を変えています。平清盛が神戸で国際貿易港「大輪田泊」を大修築した時期と重なります。

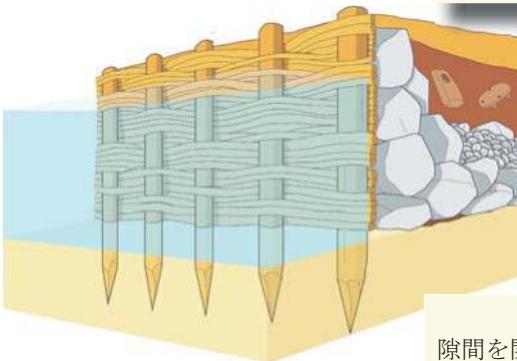
### 南北道路（旧塩津海道？）周辺の様子





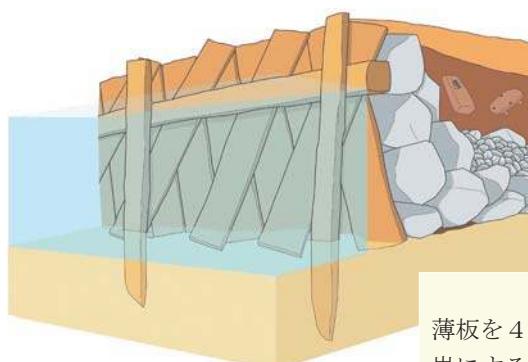
高密度杭列 (こうみつどくいれつ)

径8cm、長さ180cmほどの杭を隙間なく、帯状に打ち込む。高さ1mほどの垂直護岸ができる。



シガラミ

隙間を開けて打ち込んだ杭に枝や葦類を絡ませる。強度が必要なところには多重に設ける。



菱垣 (ひがき)

薄板を4、5枚重ね合わせて垂直護岸にする。上部には倒れてこないよう倒木が取り付けられる。



のちに一般的になる石垣は古代から中世にかけての塩津港では見ることはできません。近くで採取できる石がもろいチャート系の石であることも関係していると思われます。

このようにして築かれた垂直護岸のほか、桟橋も見つかっています。様々な大きさの船が様々な目的をもつて港に発着していたものと考えられます。

この他にも「疎密度杭列帯（消波堤か？）」「横矢板」「石敷き傾斜護岸」など様々な工法が用いられています。

塩津港は様々な工法で埋め立て工事がおこなわれました。上にあげた工法が塩津の港作りに使われた代表的なものです。これらの護岸で最大1mの垂直な岸壁を築いたと考えられます。当時の船の喫水から十分に船が横付けできたものと想定できます。

## 埋め立ての工法

## 港を行き交う人々・生活を彩つた様々な道具

調査では多彩な遺物が大量に出土しました。道路の側溝の踏み板に転用されていた大きな板は船板です。（表紙・裏表紙の写真参照）板作りの構造船としては日本最古のもので、しかも長さが20mを超えるような大型船が想定できます。近世近代に琵琶湖水運の主役であった「丸子船」の祖型となります。



【付札木簡】



【鉄製片口鍋】



【炭化したお米】



【船を作るための道具】チョウナ・ノミ・タガネ



【アカスクイ】

船の中に湧き出た水をすくい出す道具。





【金輪】燈明皿を受けて柱などに取り付け 【櫛】  
ました。

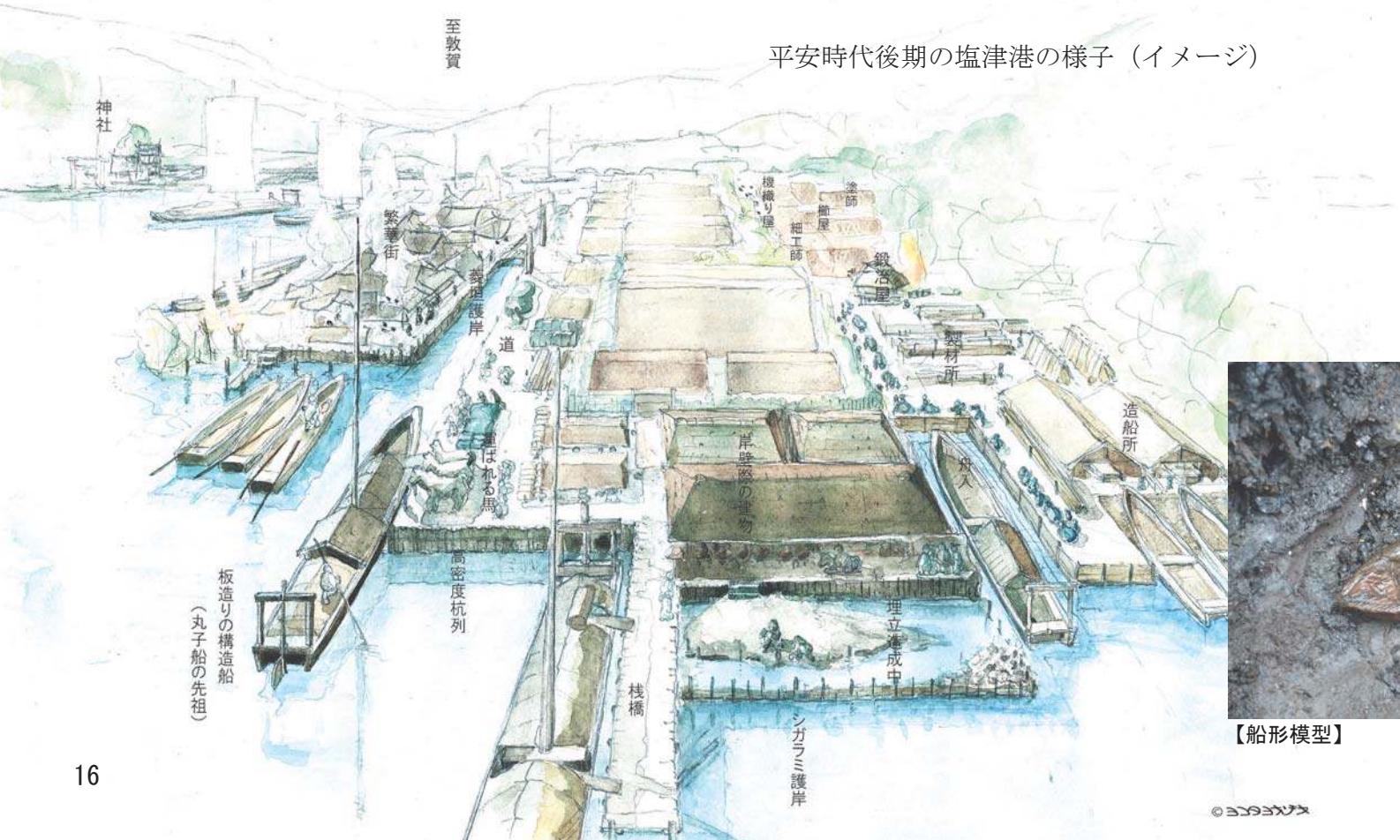


【腰刀】成人男性のほとんどが身に着けていた腰刀。刃渡り 20 cm ほどの刀が 100 本  
近く出土しました。護身・調理・木材加工などあらゆる場面に使った万能刀です。

【白磁の人形】



【雑道具のいろいろ】(下駄 (左)・椀 (中央)・鍤・盤)

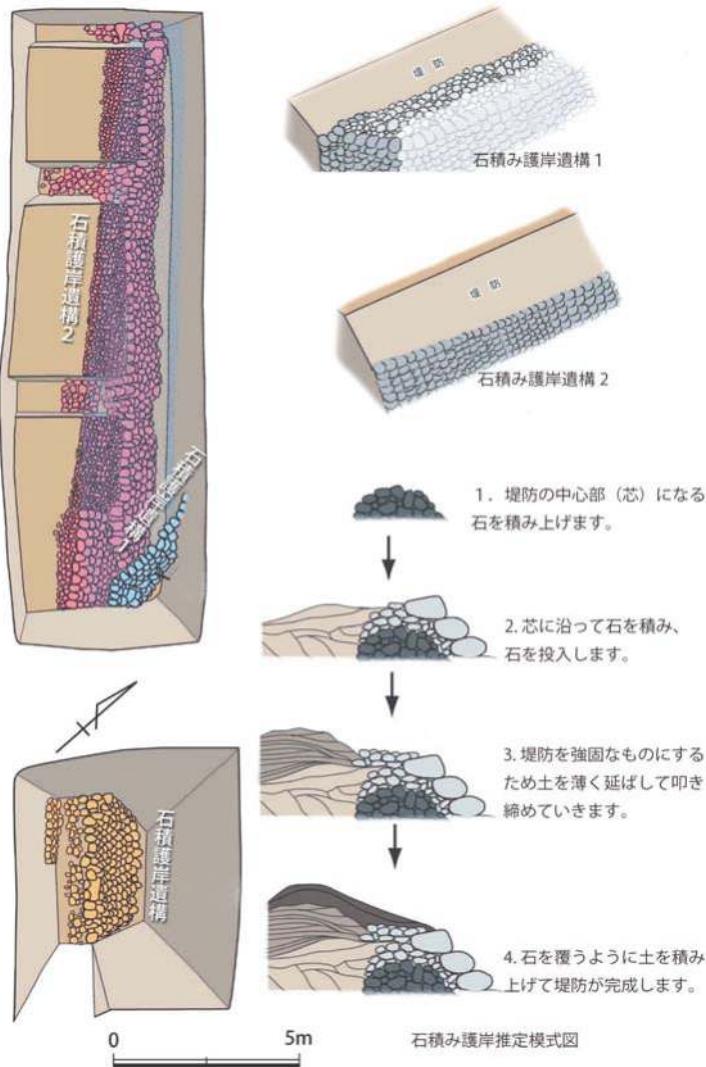


平安時代後期の塩津港の様子 (イメージ)



## 土位遺跡

土位遺跡は、飛鳥時代から中世にかけての集落遺跡として知られています。その場所は愛知川の左岸にあたり、1万年前に形成された古い愛知川扇状地が侵食されて形成された谷底低地に位置します。愛知川の谷底低地は、より高位にある古い愛知川扇状地と比べて水利に恵まれていることから、古代より開発がおこなわれた地でもありました。土位遺跡のある場所は、かつては神崎郡に属し、ほ場整備がおこなわれるまでは古代から中世にかけて施行された神崎郡条里が残っていました。また、遺跡を東西に横断して流れる「吉田井」は、少なくとも16世紀の段階において愛知



土位遺跡の土手の作り方（愛知川堤防編）

川左岸の谷底低地を潤す重要な用水路として機能していました。

発掘調査は、県道五箇荘八日市線の工事に先行しておこなわれました。調査区の一番南側にあたる1区では、2棟の掘立柱建物跡や土器を廃棄した穴（土坑）、などを確認しました。柱穴と考えられる穴の中には石を据えたものも存在します。土器を廃棄した穴からは、鎌倉時代ころ使用された土師器や黒色土器、平安時代頃に使用された土師器や緑釉陶器、そして寺院に使用されたと考えられる瓦の破片が出土しています。



【1区の調査】 奥が愛知川  
掘立柱建物（平安時代～鎌倉時代）

【土坑墓】（平安時代後期）



知川の流路に面する個所において、0.3～0.5m大の河原石を6段以上に積み上げた石積護岸があり、その背面は土を叩きしめて積み上げた堤体部で構成されていました。堤防の一部では、愛知川側へ張り出すように石積護岸が作られていてから、水の勢いを弱める「石出し」のような施設と考えられています。

愛知川に最も近接している3区では、旧愛知川左岸堤防の一部を確認しました。堤防は、愛



【善法院庭園の測量調査の様子】



【善法院庭園の現在の様子】



【本行院南側通路の様子】

比叡山の西麓に広がる三井寺（園城寺）には、山腹にかけて多くの坊がかつてありました。現在ではそのほとんどは段状の平場が残るのみです。その一つである善法院には、安土桃山時代後期～江戸時代初期に築かれた庭園があり、昭和9年（1934）に名勝史跡に指定されました。しかし、昭和16年に山津波の被害を受けてから荒廃が進んでいます。そこで整備活用計画を作るために必要な周辺の地形測量図を作成することになりました。その結果、9箇所の方形を基本形とする坊跡とそれらをつなぐ通路などを確認しました。坊跡の多くは、土壠あるいは石壠により隣接する平坦面や通路と隔てられ、進入口が認められました。

## 園城寺善法院庭園

## 金森西遺跡

かねがもり



【⑦の調査】



【⑧の調査】

金森西遺跡は、守山市の南部に所在します。⑦の調査は道路工事に伴って実施しました。調査の対象となつた地点は、かつては中山道と湖岸を結ぶ「馬道」と呼ばれています。調査の結果、古墳時代の堅穴住居や溝、近世から近代にかけての溝を発見しました。

守山川河川改修工事に先行して⑧の発掘調査を実施しました。調査の結果、中世の掘立柱建物を2棟、柵などを確認しました。建物跡などがあることから、調査地周辺は自然堤防状の微高地にあたると考えられます。

⑦⑧金森西遺跡 守山市三宅町

## 鍬取遺跡

くわとり



【掘立柱建物】(鎌倉時代)

鍬取遺跡は、彦根市の南東部、荒神山の南東麓に所在します。県営排水路工事に伴つて発掘調査を実施しました。調査の結果、鎌倉時代の掘立柱建物や水溜め遺構などが見つかりました。また時期は不明ですが、白磁の人形が出土しました。



【発掘調査の様子】



【白磁人形】(時期不明)

⑨鍬取遺跡 彦根市賀田山町

## 野尻遺跡

中ノ井川河川改修工事に先行して調査を実施しました。幅3.6mの東西溝を確認しました。古墳時代から中世にかけて機能した溝と考えられ、下流から多数の杭を打ち込んだ杭列構が見つかりました。



## 長浜城遺跡

長浜駅東地区市街地再開発事業に伴つて発掘調査を実施しました。調査区の一つで石垣が見つかりました。江戸時代の長浜町を区画する堀の一部と思われます。



## 法藏善寺遺跡

新名神高速道路工事に伴う調査で、近隣に想定されている法藏禪寺跡との関係を明らかにするために、表土を除去し、平坦面の堆積状況および形成時期の確認をしました。調査の結果、遺構は確認できなかつたものの、複数回の造成が行われていることが判明しました。



## 青岸寺庭園

平成25年からおこなわれている保存修理工事に伴う調査で、園内の書院から見える流れの護岸石や池の中の埋もれた景石を確認するために発掘調査を実施しました。昭和11年には見えていた景石が、80年程の間に苔や土砂で埋もれたことがわかりました。



# 平成27年度調査事業一覧

## 【発掘調査】

No.	遺跡名	所在地	内容	面積(m <sup>2</sup> )	主な遺構・遺物
国土交通省事業					
1	松原内湖	彦根市	発掘	3,940	丘陵部で横穴式石室・蔵骨器を検出。低地部で整地層上に建てられた掘立柱建物を検出した。古代の遺物とともに縄文土器も出土した。
2	塩津港	長浜市	発掘	1,592	平安時代後期から中世にかけて造られた港を検出。南北道路・基壇建物・水路などを検出。大量の遺物のほか、転用された板作りの構造船部材が出土した。
3	中畠・古里	野洲市	発掘	7,900	弥生時代の堅穴住居・方形周溝墓、古墳時代～平安時代の集落を検出した。
NEXCO西日本事業					
4	法藏禪寺	大津市	発掘	310	山地の開発造成地を検出。
県土木交通部道路課事業					
5	土位	東近江市	発掘	2,330	古代～中世の建物跡を検出。近世の愛知川堤体を複数検出。
6	野尻	栗東市	発掘	925	複数の溝および溝内で杭列遺構を検出し、古墳時代から中世の土器が出土した。
県土木交通部河港課事業					
7	金森西	守山市	発掘	250	中世の掘立柱建物・柵を検出。
県農政水産部事業					
8	鍬取	彦根市	発掘	1,209	鎌倉時代の掘立柱建物・水溜め
9	金森西	守山市	発掘	927	古墳時代の堅穴住居
市町事業					
10	袖差他	草津市	発掘	8,661	古墳時代から室町時代の掘立柱建物・堅穴住居・区画溝
11	青岸寺	米原市	発掘	30	庭園内で埋没した石組、護岸を検出。
12	長浜城	長浜市	発掘	1,174	近世石垣を検出。
13	園城寺 善法院	大津市	測量	12,000	道・石垣などで区画された複数の平坦面を確認。庭園状遺構を確認。
	計			41,248	

## 【整理調査】

No.	遺跡名	所在地	内容	発掘年度	主な遺構・遺物
国土交通省事業					
1	松原内湖	彦根市	整理	24～26	奈良時代・鎌倉時代～室町時代の集落跡、戦国時代の堀切・堅堀などを検出。
2	塩津港	長浜市	整理	24～26	奈良時代～中世にかけて造られた港跡を検出。大量の遺物が出土。
3	下河原	甲賀市	整理	26	古墳時代前期の堅穴住居を検出。
NEXCO西日本事業					
4	法藏禪寺	大津市	整理	27	山地の開発造成地を検出。
県土木交通部都市計画課事業					
5	沢尻	甲賀市	整理	23～24	中世の溜池・溝・小穴などを検出。
県土木交通部道路課事業					
6	横山城・朝日	長浜市	整理	25	古墳時代後期の古墳、複雑に重複した奈良時代の堅穴住居30棟を検出。
7	太子	大津市	整理	25	縄文時代の土器棺墓、中世の掘立柱建物を検出。
8	閔津・閔津城	大津市	整理	21～23	戦国期の閔津城に関する館跡などを検出。
9	蛭子田	東近江市	整理	26	大量の土器を含む平安時代の溝を検出。
10	臨濟庵	東近江市	整理	25	浅い谷地形を検出し、一石五輪塔が出土した。
11	安養寺	近江八幡市	整理	25～26	古代～中世の集落跡。大量の古代瓦や大型礎石が出土。
12	金森西	守山市	整理	24～25	古墳時代前期の集落跡、旧川道を検出。玉つくり関連遺物が出土。
13	岡	栗東市	整理	23～25	古墳時代の周溝、奈良時代から平安時代の掘立柱・溝などを検出。
県土木交通部河港課事業					
14	塩津港	長浜市	整理	18～20	平安時代後期の神社跡を検出。300点を超える起請文木札、神像5体などが出土。
15	大石城	大津市	整理	26	鎌倉時代の土坑や小穴を検出。漆塗り鳥帽子が出土。
16	天神畠・上御殿	高島市	整理	20～26	古墳時代～平安時代の旧河道などを検出。旧河道から木製祭祀具などが出土。
県土木交通部砂防課					
17	島	近江八幡市	整理	24～26	古代の河川跡や、近世の整地層を検出。
県農政水産部事業					
18	下羽田	東近江市	整理	21～23	縄文時代の土器棺墓、奈良時代～平安時代の石敷遺構などを検出。
県土地開発公社事業					
19	堤ヶ谷	竜王町	整理	24～26	弥生時代の堅穴住居、中世～近代の墓および関連遺構を検出。
県病院事業庁事業					
20	吉見西	守山市	整理	25	古墳時代の墓と住居、奈良平安時代の集落跡、土器埋納遺構を検出。
市町村事業					
21	貴生川	甲賀市	整理	25～26	古墳時代中期～平安時代末～室町時代の集落跡。室町時代の城館などを検出。



写真 表紙 塩津港遺跡出土の船板材

裏表紙 塩津港遺跡、船板材と南北道路

刊行年月日：2016年（平成28年）7月23日

編集・刊行：公益財団法人滋賀県文化財保護協会

滋賀県大津市南大萱町1732-2 滋賀県埋蔵文化財センター内

TEL:077-548-9780 / FAX:077-543-1525

URL:<http://www.shiga-bunkazai.jp/>

✉ [mail@shiga-bunkazai.jp](mailto:mail@shiga-bunkazai.jp)